

「淡路人形浄瑠璃」上演会に300人の観衆魅了

8月8日に播磨町中央公民館の第2回文化講演会として500年の歴史を誇る、淡路人形浄瑠璃を上演しました。町民約300人が伝統芸能のすばらしさを体感し、楽しみました。



▲ジョセフ・ヒコや新井の話もとび出して…

「夏休みおもしろ教室」

今年も喜瀬川で魚や虫の観察をしました

毎年、喜瀬川のであい橋付近で実施している水生生物の観察会を、今年も健康安全グループと図書館が共催する「夏休みおもしろ教室」で環境学習の一環として8月11日に催しました。



▲大人も子どもも興味津々

今年、観察会が始まって以来はじめてウナギが見つかりました。喜瀬川の水質も昨年よりも改善していることがわかり、子どもたちはもちろん、大人も自然を満喫できた教室でした。今後も喜瀬川を「ふるさとの川」として私たちの宝物として大切にしたいですね。

第5回「ことぶき大学納涼ふれあい発表会」盛大に開催

「ことぶき大学自治会が主催する「第5回ことぶき大学納涼ふれあい発表会」が8月4日大ホールで盛大に開催されました。ことぶき大学では、今年から3年制を実施しています。3学年までの学生とOBが協力しながらたいへん練習にも熱が入りました。当日は、歌に踊りにと熱気にあふれ、多くの一般の方々にも来ていただき、盛況の内に終わりました。



▲例年にも増して盛大に

他にも、「ことぶき大学自治会」は自治会活動として年間を通じていろいろな行事を自主的に企画し、積極的に活動しています。なかでも「ふれあい発表会」と「大発表会」は、現役生とOB生が協力し、交流を深める大切な行事となってきました。今後もこのように「ことぶき大学生」としていろいろな場面で高齢者のパワーを発揮し、自分たちの生きがいづくりに繋げていこうと考えています。

第4回「日本文化のびょう」



▲世代を超えて踊りの輪が広がる

8月25日中央公民館で、播磨南高等学校、播磨町ことぶき大学、心そだち場楽集隊塾、学童保育の子どもたちなど約300人が参加し、子・親・祖父母の三代がつどい「日本文化のびょう」を催しました。吹奏楽の演奏、折り紙や吹きもどし、伝統的文様を使ったカード作りなどのワークショップの他に総踊り（阿門音頭、播磨音頭、播磨南高等学校による生演奏の炭坑節）などがプログラムにあり、ゆかた姿で楽しむ人もありました。日本の文化のすばらしさを改めて実感した、心に残る催しでした。

楽屋裏

表紙およびトピックスに紹介した人形浄瑠璃を観覧しました。解説がわかりやすく、とても引き込まれました。1つの人形を3人で動かして演じるのが人形浄瑠璃です。観客席から手を上げた2人の方が、人形の使い方を劇団の方から教わって体験してみたのですが、素人には難しいことです。演目の中では生きてるように見えた人形ですが、目線と手の動きがバラバラになって、なんとも滑稽に見えてしまいます。壇上の参加者も、会場も笑いでいっぱいになりました。(宮)

播磨ふれあいの家



▶天空の城 竹田城跡

秋が深まるにつれ、朝来市和田山町は朝もやの霧が発生しやすくなり、写真のように竹田の城跡が雲の上に浮かんでいるような見事な風景をご覧ください。まるで天空の城のようです。このような竹田城跡を観覧するには、当館から車で約30分、朝来山の中腹にある「立雲峡」へ。多少山道を登ってください。(雲海の発生する時間は午前9時までです。当日の天候に左右されます)

播磨ふれあいの家より

▶予約・問合せ ☎079(678)1481

わんぱくはりまっ子



くさかべりん 日下部 里音ちゃん(2歳) 北古田

いつまでも元気で、かわいりんちゃんできてね！ お父さん、お母さんより

いいね! はりま

町政 レポート No.45



▲出演者のサインが展示されたふれあいの家ロビー

◆「あっ流れた！」ふと見上げた空で一筋の弧を描いて星が流れていきました。何年ぶりかで満天の星空と流れ星を見ました。「播磨ふれあいの家」がある朝来市では、毎年夏に多々良木ダム湖の下、美術館の芝生の庭で音楽祭が開催されます。私たちの世代なら誰しも口ずさんだことのある永遠のフォークソングをヒット曲に持つ歌手たちによるライブコンサートです。夕暮れから始まったコンサートはさわやかな夜風と星空の下2,000人の観客を3時間魅了しました。夜の闇に浮かび上がるステージでは観客も一体となって手拍子を取り、熱唱が繰り広げられました。春は桜、秋は紅葉、四季を通じていろいろな楽しみ方ができる「播磨ふれあいの家」です。ぜひ一度ご利用ください。

◆薄暗い会場に浮かび上がるその絵画は思わず息をのむ美しさでした。東京国立近代美術館に播磨町出身の画家、浅原清隆氏の遺作が8月8日まで展示されていると遺族の方よりお聞きし、たまたま東京滞在中の絶好の機会と思い、出張の帰途立ち寄りしました。これまで写真で拝見したことがある2点の絵は、目の前に立つと想像していたより大きな作品で、時の流れを感じさせない斬新で豊かな才能を感じさせてくれるものでした。改めて、若くして生涯を終えられた、浅原清隆画伯の才能を惜しむものです。播磨町出身で近代絵画に名を残した氏の存在を、ぜひご記憶いただければと思います。

◆8月のふれあい映画会で「おとうと」を上映したところ、会場は満席でした。大変多くの方々にご来場いただきました。今、高齢者の安否確認が話題になっていますが、この映画は改めて家族の絆、人生の最後のあり方など考えさせられるものでした。どうぞ、かけがえのないそれぞれの「絆」を大切にしてください。

播磨町長 清水ひろ子